
字書きさんに100のお題「いつかどこかで」

みちよ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

字書きさんに100のお題「いつかどこかで」

【Nコード】

N8609K

【作者名】

みちよ

【あらすじ】

なんども出会つふたりのはなし

（前書き）

字書きさんに100のお題（桜カヲル様）からお題をお借りしました。

<http://www.minc.ne.jp/kaworu/100.htm>

「92.いつかどこかで」

「会ったことありませんか？僕たち」

「は？」

暑い日だった。暑い暑い日だった。こんなに暑ければ脳味噌も沸く。変な人も現れるだろう。

「以前どこかで——そう、遠い昔に……」

「保険も宗教も彼氏も間に合っています。それでは」

私はスカートを翻して回れ右をした。すたすたと歩いて角を曲がる瞬間、ちらりと男を見た。そいつはまだそこに立って、はて？という顔をしている。今どきナンパやキャッチセールスにも使わない陳腐なセリフをいうと思ったけれど、本当に私と会ったことがあったのかもしれない。ちらりと、悪いことをしたかなと思った。でも私には心当たりがない。ではやっぱり勧誘か布教かナンパだろう。そう結論が出たので、罪悪感はどこかにいった。次の瞬間には男のことなどすっかり忘れて、スーパーのタイムセールのことと頭がいっぱいになった。

「いつかどこかで——会ったことありませんでしたっけ、僕たち」

「ありません」

寒い日だった。寒い寒い日だった。変質者も出歩くのを憚るような日だが、真の変人は時と場所を選ばない。見覚えのない男の言葉をコンマ00何秒かの速さで一蹴し、私は配給車に向かって走った。記憶力には自信がある。全く心当たりのない顔だ。お国の行く末に暗雲が立ちこめてからああいった変な輩が増えて困ったものだ。まともな人ばかり兵隊にとられていく。

「いつかどこかで——」

「会ったことなどありませんわ、私たち」

そこまで言って、私ははたと固まった。こんなセリフをいつかどこかで聞いたことがあった気がする。こんな人に前にも会ったことがあるような気がする。私は彼の顔をじっと見た。どこだったかしら。ちつとも思い出せない私は、よっぽど長く見つめてしまったのだろう、彼はたじろいで、前言撤回したそうに視線を泳がせた。わかりやすい人だ。

「あ、あの――」

「やっぱりありませんわ、私たち」

につこり笑って、私は踵を返した。角を曲がるときにちらりと見ると、彼はしばらくぼんやりしていたようだったが、やがて雑踏に紛れていった。その横顔がほっとしたような色を帯びていたものだから、思わずくすりと笑ってしまった。何も考えずに声をかけたんだな、変な人。

その後ろ姿を見送りながら、思い出した。彼は一昨年買った家庭用掃除ロボットに似てるんだ。

私はすっきりした気持ちでまた歩き出した。一瞬あとには家族に買わなければいけないお土産のことを思い出し、彼のことは頭から消えてしまった。でもその直前、思った。

彼とはまた会うことがあるかもしれないな、と。

いつかどこかで、きっと。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8609k/>

字書きさんに100のお題「いつかどこかで」

2010年10月22日00時13分発行